

ハンドボール

NO. 22

Japan
Handball
Association



<input type="checkbox"/>	社会人
<input type="checkbox"/>	学生
<input type="checkbox"/>	高専
<input type="checkbox"/>	高体連
<input type="checkbox"/>	中体連
<input type="checkbox"/>	小学生
<input checked="" type="checkbox"/>	少年女子

<input checked="" type="checkbox"/>	全国大会
<input type="checkbox"/>	ブロック大会
<input type="checkbox"/>	都道府県大会

<input type="checkbox"/>	男子
<input type="checkbox"/>	女子

試合 番号	A-p
----------	-----

年月日	2023 年 10 月 11 日 (水)
大会名	特別国民体育大会 燃ゆる感動かしま国体 ハンドボール競技

公 式 記 録 用 紙

A 東京都										千葉県										⑤			
都道府県 鹿児島県			市町村 霧島市				会場 霧島市国分体育館						回戦 決勝戦										
前半		A	B	最終 結果		A	B	第1 延長		A	B	第2 延長		A	B	7m追加 シフト		A	B				
7m得点/総数		A 0/0		チームタイムアウト						チームタイムアウト			B 1/3		7m得点/総数								
		1	2	3	2006					1	2	3	2926	2402									
No.	東京都					G	W	2'	2'	D	DR	No.	千葉県					G	W	2'	2'	D	DR
1	石黒 櫻子											1	堀内 雪羽										
2	佐茂 春陽					3	1					2	アシュール 莉麻										
3	福田 舞希					10		1				3	荒井 七香					3					
4	木尾 珠里奈					2	1	1				4	杉山 日菜					1					
5	井上 咲稀					3						5	吉田 心					6					
6	長谷川 凜											6	星野 友利										
7	市橋 菜々子					1						7	加藤 真央					6					
8	普久原 朱怜					5						8	中村 真心					7					
9	塩釜 優依											9	齋藤 史歩					4					
10	熊谷 悠帆											10	倉持 愛泉					1					
11	村松 祐奈											11	永井 桜莉										
12	多田 陽南子											12	関口 華恋										
監督A	須川 文敬											監督A	佐藤 奏吉										
役員B	榎本 満里奈											役員B	池田 轟輝										
役員C	田中 久樹											役員C	浅井 大										
												役員D	町澤 凜花										
A	須川文敬					チーム役員A署名					佐藤奏吉					B							
特記事項																							

レフェリー	神田 史郎	田上 大介	神田史郎	田上大介
TD	井料 たか子	當寺盛 望	井料たか子	當寺盛望
MO	永吉 浩幸		永吉浩幸	

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR)特記事項に報告書として内容を記入

特別国民体育大会 燃ゆる感動かごしま国体 ハンドボール競技
試合結果・戦評報告書

競技日	10月11日(水)	試合番号	A-p	回戦	決勝
種別	少年女子	会場	霧島市 国分 体育館		

Aチーム名			Bチーム名		
東京			千葉		
得点合計	小計		小計	得点合計	
24	13	前半	14	28	
	11	後半	14		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7mTC			

戦評

東京(白梅学園)対千葉(昭和学院)というインターハイ決勝と同じ組み合わせとなった決勝戦。千葉が⑦加藤のポストシュートで先制すると、東京は⑥普久原のサイドシュートですぐさま追いつく。序盤から東京は③福田⑥普久原、千葉は④中村⑤吉田らが得点を上げ、互いに一步も譲らない。7人攻撃で数的有利をつくりながら確実に点を取りに来る東京に対し、千葉もPV⑦加藤とCB⑩倉持を中心とした多彩なオフェンスを展開し、一進一退の攻防が続く。両チームともにディフェンスも粘り強く、点差が開くことがないまま13対14で前半が終了した。

後半も東京の7人攻撃が機能し、⑥普久原や③福田のサイドシュートが決まる一方で、千葉も⑦加藤を中心に得点を重ねる。均衡状態が続くなか、千葉は7mTのチャンスを得るも、これを東京のGK⑫多田がセーブ。一層白熱した試合展開となる。10分を過ぎ、東京から2分間退場者が連続し、4分近く数的不利の状況となる。好機を得た千葉だが、東京の必死のディフェンスにゴールが遠く、思うように点差は広がらない。しかし、その後東京のオフェンスミスの際をついた千葉が連続得点。20分に3点差をつけると、東京はタイムアウトを要求。以降連続失点は免れるが、一進一退の状況に大きな変化は表れない。東京は、GK⑫多田がまたも7mTをセーブするファインプレーを見せるが、中盤についた3点差を縮めることができない。終了間際、千葉の⑨齋藤がリバウンドからサイドシュートを決めて東京を引き離し、インターハイの雪辱を果たす形で優勝を決めた。最後まで熱戦を繰り広げた両チームの健闘を称えたい。

記載者氏名	廣森 健太郎
送信日時	10月11日(水) 17:25